広報ひらつか

特集　20万都市平塚

昭和52年1月15日／神奈川県平塚市役所発行／編集・企画室秘書広報課／　浅間町9番1号　電話（22）1700一代表

毎月15日／77,000部／全世帯配布.（一部5円）／昭和31年10月3日　第三種郵便物認可　郵便二号254

躍進の平塚　20万都市へ

いよいよ平塚市も二十万都市への仲間入りである。人口の増加が必ずしも都市レベルのバロメーターにはならないにしても、人の多く集まるところに情報が生まれ、刺激が与えられ、それを通じて新しい知識を吸収できるとすれば、人口の増、人口異動は、やはり喜ぶべきことである。

この人口増も、一昨年の半ば頃から、社会的な増加が落ち込んでいる。経済の変動がそのまま人口異動に現われてきているわけである。平塚市の場合、最近の五年間のうごきでは、年間五千人前後の増え方である。今後の見通しの中には、大型団地のうごきが見られるから、この数字を大幅に上回ることが予測される。これは、小・中学校の新設計画といった問題にきびしい反応を示すから、人口推計には、つい神経質になってしまう。

二十万都市となると、都市としての役割り分担も違ってくる。自然、行政の取り組み方も若干変えていくことにもなる。しかしながら、国と地方都市との仕事の配分には、依然、不可解な問題が残されており、その財政メカニズムの中で、どうしても、もう一歩伸び上がれない都市の現状である。際限なく広がる行政需要に、どう取り組んでいくか、むずかしいところである。台所の野菜くずをどう処理したらよいのかと、家庭の主婦を悩ませた時代、海岸の松林にし尿の不法投棄が目立った時代もあった。それらを、一つ一つ解決し、都市基盤の整備もすすめてきた平塚市である。二十年後までに、いま抱えている問題の幾つを、またどれを解決に導いていくか。市民の知恵、家庭の協力も待たれるところである。

福祉見直し論はあっても、〝ハンディを負った人々も平等に幸福を追求できる〟という原点は変りない。一面では、うるおいも緑もない人工砂漠、コンクリートの町、こういった表現もある。自然界の現象をストレートに見られない子供たち。人間都市への移行が始まったのは当然のことなのかもしれない。戦災で、市街地のほとんどを灰にし、壊滅的ダメージを受けながらも、〝まず復興を〟と、かいがいしく立ち上がった市民。今また、別の意味で協力をし合わなければならないときのようである。

自然は片寄ることを嫌う。この自然の法則に対応できる都市とは何であろうか。みんなの英知を結集して、汗と努力で、わが町ひらつかを、つくり上げていきたいものだ。この子供たちの目から、明るさを失わせないためにも。

いまちづくり

市民像はどうあるべきか

市民を迎える。地方の中核都市としてなお発展を続けていくためには、何をどうしたらよいのか、新春にあたって、市民にご登場願い、あすの平塚について、話し合っていただいた。

テーマは、「20万人目の市民を迎えて、私はこう思う」―。

市長あいさつ

市政を担当することになって、一番最初に直面した問題は、沈滞している商業、農業、水産業などの経済基盤を、どう食い止めるか、また、自主財源と依存財源の財源を、どう確保するか、この二つの問題にまずぶつかりました。平塚は、総合的な産業都市としての意気込みがありますし、文化的な、観光的な要素を持った、すばらしい立地条件の中にあります。二つの問題と取り組む上で、これをどう結びつけていくか、非常に悩んでいます。更に衆知をあつめてやっていかなければならない問題です。

もう一つの核必要
売り上げに響く全面駐禁

司会　まず、商業の振興にもつながってまいりますが、車の問題、駐車場の問題などから、入ってみたいと思います。

鹿島　平塚には、立体的な駐車場がない、なぜだろうか、と感じます。それから、規則が一番守られているのは、湘南電車の平塚―東京間の禁煙、あれは本当厳しくよく守られていますね。それと反対に一番守られていないのは、市内の駐車禁止です。規則をつくらないほうがいいくらいのものです。

細野　ほんとに車公害の状況です。港地区は、競輪のときなどは大変なものです。駐車禁止のところを大変増やしていただいたんですが、取り締りがないものですから、何の効果も現われてなくて困がゆく思っているんです。

寳代　商店街のことを考えると規則どおりやっぱり、売り上げに大変響いてしまう。売り上げと全面駐禁ということで、ジレンマに陥っている状態です。いずれにしましても、いつまでもこのままにしておいてはいけないということは、商店街のほうも、また駐禁のほうも考えているようです。

安藤　平塚駅に集中するということは結構なことですが、逆に、夫開発の逆の方向に、もう一つの核を、という気がします。同じ方向にばかり資本投下をするということは、そこに非常な混雑を招くと思います。新らしいところに投下していったらどうだろうかと考えます。それによって次の大きな都市に発展していくというような考え方もあるんじゃないかと思います。全的な考え方からいけば焦ることなく、ゆっくりと大きなところにねらいをつけていったら将来のことにプラスになるだろうと考えます。

新幹線との連携を

鹿島　商工の具合い見ていると、慶応は駅を中心に大発展になってきている。厚木も日の出のような勢いで上ってきている。平塚の場合、素人目にも日の出の勢いというものは失われているように感じるんです。

小説家の空想ですが、将来、備えて大きなビジョンを持つことまず、海を活用した商港を持つ以外にはない、と考えるんです。もっとも、一般民生活とのバランスをどう取っていくか、という問題は残りますが……。

安藤　駐車場をつくるとすれば立体化ということになりましょうが、それはそれとして、いまの平塚駅を中心としたものを発展させていくとしますと、混雑と騒音が

明るく住みよ

20万人の平塚像・市民

左側山本信一氏と右側鹿島孝二氏

派生的に広がってきた日本の都市構造は、それぞれの都市が多くの問題をかかえる結果となった。市民が求めているものは、一体、何なのか、次代の市民へ託す平塚の姿は、どうあるべきなのか、真のニードを追求していくうえで、市民の英知を集めたい。平塚市も近く20万人目の

市民の宝　平塚海岸

魚礁をつくり観光漁業で

司会　では、水産業の面ではどうでしょうか、何か……。

安藤　水産と港、というような直結があると公害が出やすい。平塚の場合は、観光漁業の面ですすむのもやむを得ないのではないかと、感じています。ただ、そのままで停滞して行ってしまうのではないかとも思ってみるわけです。

宮代　思い切って、相模川を運河形式に造り上げたらどうかと、考えてもみています。また、いま幹線に向って造ったらと思うんです。いってみれば、市民の心の安らぎの場をつくるという構想もいいのではないかと思います。

鹿島　馬入川を渡ってこちらに来ると、初めて人工の手の加わらない自然の公園として、そっくり海岸が残されている。これは、平塚の宝だと思うんです。ところがその宝であることを平塚市民は感じていないんですね。汚れていますしね、紙くず、あき缶、ともかく目を覆うばかりです。きれいにしてあったら、それこそすばらしいと思います。

いにしえから美しい川として知られているライン川、いまもってきれいなままでいる。七か国の間を流れていますが、とくにドイツの流域は美しいわけです。これを汚すことは、ドイツの国際になるというんで、ドイツでは早くから大学に公害講座を設けて、ライン川のいたるところに浄水装置を設けて、相模川はヘドロでいっぱいになっている。これでいいんでしょうかね。あしたの平塚市では、日本中に模範を示す意味で、山本さんのいっておられるように精神面の開発が必要であろうと思います。

山本　平塚市のイメージは、一体よそのひとから見て何だろうと思うと、やっぱり海、いわゆる海岸の問題ですが、大磯や、海水浴場、保養地としての性格から、下流はヘドロでいっぱいになってしまいました。そのヘドロが、川だけでなく、今度は海に及んでしまっています。漁民から「なんとかしろ」といわれますと、心臓の止まる思いがします。環境整備がおくれますと、相模川沿いに公園緑地になるような堤防を築造って、漁業へいかざるを得ないという方向にあるわけです。茅ヶ崎の浜には企業がいろいろ入って、浜の性格を変えています。せめて、平塚だけでも湘南海岸の観光資源にふさわしい海岸にしておきたいと考えています。それには、関連として、河川の改修もやっていかなければなりませんが、それと同時に魚礁を造って、釣り人口に対応した生鮮魚介類の提供をしていく、という相模湾、相模川、これが自然環境としては、一番魅惑のある平塚市のイメージではないかと、こう思うんです。ここに平塚市の夢が残されているように思えるんです。レジャーという非常に大きな傾向の中に、これを生かす上で、重要な意味があると思うんです。

心臓が止まる思い

市長　相模川が全面的水位来、下流はヘドロでいっぱいになってしまいました。そのヘドロが、川だけでなく、今度は海に及んでしまっています。漁民から「なんとかしろ」といわれますと、心臓の止まる思いがします。環境整備がおくれますと、相模川沿いに公園緑地になるような堤防を築造って、もらって、厚木、八王子から内陸へ通じる堤防、イパバ路もほしいと思いますし、そこへモノレールも導入できるような、いってみれば車をなくす一つの手段としても、そういうような河川改修をやってもらうことが大切であると思います。

海の問題ですが、大磯や、海水浴場、保養地としての性格から、下流はヘドロでいっぱいになってしまいました。そのヘドロが、川だけでなく、今度は海に及んでしまっています。漁民から「なんとかしろ」といわれますと、心臓の止まる思いがします。環境整備がおくれますと、相模川沿いに公園緑地になるような堤防を築造って、漁業へいかざるを得ないという方向にあるわけです。茅ヶ崎の浜には企業がいろいろ入って、浜の性格を変えています。せめて、平塚だけでも湘南海岸の観光資源にふさわしい海岸にしておきたいと考えています。それには、関連として、河川の改修もやっていかなければなりませんが、それと同時に魚礁を造って、釣り人口に対応した生鮮魚介類の提供をしていく、という相模湾、相模川、これが自然環境としては、一番魅惑のある平塚市のイメージではないかと、こう思うんです。ここに平塚市の夢が残されているように思えるんです。レジャーという非常に大きな傾向の中に、これを生かす上で、重要な意味があると思うんです。

ヘドロは……努力次第

具体的には、「平塚の海岸はきれいだ」というイメージづくりをしていく必要があります。これは具体的に、いますぐでも取り組める目標の一つです。青松白砂といった地域が平塚には残されている。大磯にしなければと思います。相模川しなければ、ヘドロの問題も、努力次第で出来ることだと思うんです。

桜並木の問題も、堤防も幅広くなって、自然公園的なものにすれば、それも出来ると思います。そういうことができれば、本当に平塚地域に、相模川と平塚海岸という組み合わせで、これはすばらしい一つの夢が残されると、こう考えます。

市長　将来、きれいな川になります。これを観光資源として、どう平塚の発展に生かすかというのが、一つの問題であると思っています。

対策急務の金目川

良質な米確保の努力を

加藤　金目川の問題もあるんですよ。秦野の下水道が青梅の上にまで出来るということです。千戸ほどある大規団地、あそこのも全部金目川へ流しています。中央農協関係で、五十一年度分を四万二千位ぐらい出しているんですが、その米の質が部悪くなってしまうんです。前から県のほうへ、下水だけを運び別の川へ流してほしいと陳情はしているんですが「そんな夢みたいなことをいったって」

鹿島　市長さんから、秦野市へ「ハタノ君感を考えなさい」と申し入れたらどうですか。

市長　確かに汚水処理場がないと思っても計画に減せようとしたけれども、酒匂川の流域下水道が始まって大変お金がかかる。相模川もやり終えていない。そこへ財政不況が重なってきたということで、思いどおりにいかないのでしょう。

市長　市長さんのご意見、ありがとうございました。考えますのに、やはり行政サイドだけではまずいというのが実感です。市政は、市長と市民の共同作業という理念から、ひとつひとつ、じめじめと高め、盛り上げていきたいと思います。

きょうのご意見を大いに生かしまして、あすの市政に取り組んでいきたいと思います。よろしく。

司会　いいたりない面もあったかと思いますが今回はこの辺で。

夢を語る左側が宮代甚三氏と加藤一郎氏

技術を高める場を

先進市民の意識もたせる

司会　若干、工場と関連するお話も出てきているようです。この辺で、工場と市民とのかかわり合いといった面でだけか……。

鹿島　平塚の工場は、ずい分きれいになったと思います。問題はそこに働く人たちです。工員さんや従業員の人たちのための施設が、どうしてもないんですよ。そうした場を与えることによって、非行の問題もかなり防げるんではないかと思うんですよ。

それからね、工場経営者からよく聞く話なんですけれども、平塚に工場の青少年のためのよき指導者を教える場がないというんですね。高度の技術に追いついていけないようです。

山本　県民の意識調査で一番問題になっているのは、〝連帯感〟だそうですよ。これは、平塚市民にも通じることかと思います。高度成長のデメリットの問題からきているんでしょうけれども、これを取り戻さなくてはいけない。こう思うんです。いま鹿島さんがおっしゃられたように、勉強の場、技術的な指導の場、いわゆるコミュニティ・サービス・エデュケーション、そういったものを高度に充実させていくことが必要なんではないでしょうか。幸い、市内には文化施設も充実してきていますし、例えば先進市民であるというような意識を持つ工員さんたちと申しますと、集団工場的な問題にもなってくるんですが、工場の問題、青少年の問題、老人社会への対応といった面からみましても、この公民館のもつ役割というものは、大変重要になってくるかと思うんです。ですが、いまの公民館ですと、機能的にもそれなりに見合った設備が整っていないのが実情です。図書館、博物館、大会いものを通っていただきますと、婦人の立場からしますと、やはり身近かな場所に、内容の充実と施設がほしいと思いますし、公民館を、もう一歩充実されれば、それに応えられるのではないかと思います。

関本　若者のエゴかもしれませんが、宿泊施設がほしいですね。団体意識・連帯感を高めるキッカケの場となり得ると思います。社会人になったとき、一個人になったとき、一緒に考える場といったものがあったらと思います。またいまお話を聞いて、大部なくなってしまうと、第二種兼業にふえていくわけですから、自分の食う米あるいは野菜畑だけは残るでしょうけれども、あとは荒れてしまいます。したがって、今後の政策の中で平塚市の農地の基盤整備をしてほしいと思います。幅広い農道を通ってもらう。それによって、いまの千平方を三千三百平方くらいの耕地にしてもらって、大農具を使って、わずかな間でたくさんの耕作が出来るようにしていく、これをひとつお願いしたいと思います。

鹿島　いまお話を聞いて、大将来私どもの考えていることとしましては、青年議会です。ほんとに青少年が考えている将来の問題を、青年の立場でとことん考えるでしょうけれども、あとは荒れてしまいます。したがって、今後の政策の中で平塚市の農地の基盤整備をしてほしいと思います。それによって、いまの千平方を三千三百平方くらいの耕地にしてもらって、大農具を使って、わずかな間でたくさんの耕作が出来るようにしていく、これをひとつお願いしたいと思います。

宮代　二十万市民になった機会に、産業会館、これもぜひ実現させてほしいです。

原　工場にも関係があると思いますけれども、医療の問題ですね。休日診療についてはずいぶんいたしましたが、まだまだ土地も確保されたようですが、その中に〝休日診療緊急医療室〟ですね。それを入れていただきたいと思います。

市長　ご意見、ありがとうございました。考えますのに、やはり行政サイドだけではまずいというのが実感です。市政は、市長と市民の共同作業という理念から、ひとつひとつ、じめじめと高め、盛り上げていきたいと思います。

きょうのご意見を大いに生かしまして、あすの市政に取り組んでいきたいと思います。よろしく。

司会　いいたりない面もあったかと思いますが今回はこの辺で。

機能的な公民館に

細野　平塚は、公民館が生涯教育とか家庭教育の場として、大変よく使われているんですけれども、青少年の余暇利用の問題、老人社会への対応といった面からみましても、この公民館のもつ役割というものは、大変重要になってくるかと思うんです。ですが、いまの公民館ですと、機能的にもそれなりに見合った設備が整っていないのが実情です。図書館、博物館、大会いものを通っていただきますと、婦人の立場からしますと、やはり身近かな場所に、内容の充実と施設がほしいと思いますし、公民館を、もう一歩充実されれば、それに応えられるのではないかと思います。

関本　若者のエゴかもしれませんが、宿泊施設がほしいですね。団体意識・連帯感を高めるキッカケの場となり得ると思います。社会人になったとき、一個人になったとき、一緒に考える場といったものがあったらと思います。またいかがでしょうか。

産業会館の実現を

宮代　二十万市民になった機会に、産業会館、これもぜひ実現させてほしいです。

原　工場にも関係があると思いますけれども、医療の問題ですね。休日診療についてはずいぶんいたしましたが、まだまだ土地も確保されたようですが、その中に〝休日診療緊急医療室〟ですね。それを入れていただきたいと思います。

市長　ご意見、ありがとうございました。考えますのに、やはり行政サイドだけではまずいというのが実感です。市政は、市長と市民の共同作業という理念から、ひとつひとつ、じめじめと高め、盛り上げていきたいと思います。

きょうのご意見を大いに生かしまして、あすの市政に取り組んでいきたいと思います。よろしく。

司会　いいたりない面もあったかと思いますが今回はこの辺で。

座談会のリードをする司会の岡本昇氏

出席者（敬称略）

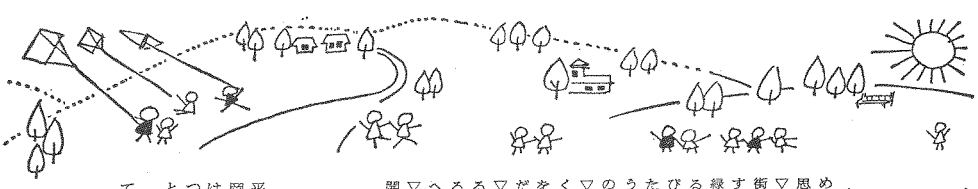
安藤寿浩	平塚市PTA連絡協議会
鹿島孝二	作家
加藤一郎	平塚市中央農協
関本隆資	平塚市青年団協議会
原ヒサノ	生活学校連絡会
細野冴子	母親クラブ連絡会
宮代甚三	平塚商工会議所
山本睿一	日本大学教

市長　加藤禎吉
司会　岡本昇　企画室

（アイウエオ順）

こどもが描く

平塚市はあと百人余りで二十万人目の市民を迎えようとしている。地方の中核都市として発展していくためには、なにを、どう、したらよいのか、いろいろ考えてみよう。そこで将来をしょって立つ子供たちに「こんな平塚にしたい」「こんなことをしてみたい」、また「わたしが市長になったら」など子供たちの率直な意見を聞いてみた。



市内を一周する地下鉄を…

坪井　聰君（旭小学校四年）

みんなが楽しく豊かにくらすために次のような事をしてみたいと思います。

▽地上を有効に使うために地下街をつくって工場や商店をうつす。地上は幅の広い道路をつくり緑地を多くして公園、住宅をつくる。学校の行き帰り、公園でのんびりとすごしたり、おつとめの人たちが美しい音楽などが聞けるような広場をつくる。みんなの心がのんびりとして、やさしくなる。

▽平塚市を一周する地下鉄をつくる。目的地に早くつくし、地上を走ったり歩いたりするより安全だからだ。

▽終末しょう場をたくさんつくる。一けん一けん水洗トイレにする。しょう場でせいけつにして川へ流せば川も海もよごれない。

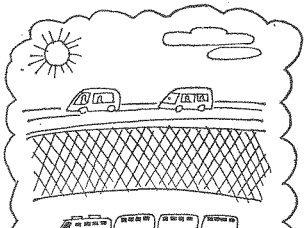
▽これ以上自然をこわすような開発をしない。

街中を公園に

杉山　千春さん（岡崎小学校六年）

教室から見えるすてきな景色を平塚全体の公園にした。岡崎の岡から南のこま山まで。夏から秋は広い緑のじゅうたん。春はせりつみ。勉強で疲れた時ちょっと見るだけですぐほっとする。毎日見慣れていてもこんなにすてきなのが。岡崎のためだけでなく、市全体のために残しておこう。

▽原っぱを多くし、公園やプールを作る。地上にはモノレールを作る。平塚と蓜野をつなぎ、金田小学校あたりに駅を作る。また、みんなの家に一台ずつ電気自動車をつくる。そうすれば、ガソリンがせつやくできるし、公害もなくなる。ぼくたちはそれにのって遊びに出かける。そんな平塚にならないかと、ぼくは思う。



わたしが市長になったら…

宇野女恵子さん（大野小学校五年）

▽原っぱを多くし、公園やプールを作る。

▽学校などに、プールを作り遊具をふやす。だれもが、この街に住みたくなるように、みんなと協力し、明るい街にしてみせる。

▽学校などに、プールを作り遊ばせる。

▽公園を数多く作り、緑でいっぱいにする。

▽救急病院をたくさん作り、いつでも手あつく受けられるようにする。

▽恵まれない子に、愛の手をさしのべる。

一台ずつ電気自動車を贈る

今井　俊文君（金田小学校三年）

地下に商店街を作り、その中に駅から、家までは、高かせんしエスカーせていきます。

手作りの市を

熊澤　昌義君（吉田小学校六年）

ぼくがもし市長になったら、だれもが、毎日を楽しく過ごせる緑のある市にしたいと思います。とはいうものの、市は市民の一人一人が作り上げていくもの。それを市長ぼく一人の手で立派な市にしようなどといってもそれはとうてい無理な話。ですから市民一人一人が平塚を、自分たちのふるさとだと思うような本市の政治をとり上げをやっていきたい。

自然を大切に

古清水　亨君（就学小学校五年）

人間は、自然をこわし、冷たいコンクリートのビルを造っている。自然をこわすことは、動物もはめつさせる。そんなことは許されできないので小学校に飼育小屋を作ってあげたい。子どもが作った手製のものがよい。動物をかわいがり、大切にしながら大人になれば、平塚をせおって立つりっぱな人間になると思うからだ。

テレビで勉強

市川　廣明君（神田小学校四年）

もしぼくが、平塚市長になったら、一つは、平塚市の中心に、学校テレビ局を作り、ぼくたちは、家にいて、テレビで勉強をする。先生のしつ問に答えると、テレビ局に聞こえるようにする。

二つめは、東京・平塚間に、どの駅にも止まらない、二十分くらいで走る列車を作り、もう一つは駅ごとに止まる列車も走らせる。

広い道路を

五十嵐　謙司君（吉沢小学校五年）

平塚の街は、駅に近くなるにつれて、道路が整備されている。ぼくたちの言葉は、昔の通り曲がりくねり、バスや、ダンプが通るために車の行列となってしまう。歩行者は、自動車のスピードすれすれに歩かなければならない。

市全体が歩行者も、車も安全に通れる、道路をつくり、すみよい市にしてほしい。

自由の本屋を

金子志寿枝さん（和秦小学校六年）

私が市長になったら、市内に本屋をふやしたい。本屋というものはみんなが自由に立ち読みできる本屋、椅子をおいて自由に読める本屋のことです。また、店のかざりかたも本の説明をしてくれたり紹介してくれたりすれば、本を好きになる人々がふえてくると思います。この様な本屋が市内に一件でもできれば、それを真似て「自由の本屋」がたくさんできてくると思います。

政治への自覚

山口登志枝さん（真土小学校六年）

はずかしくない市民とはなんだろう。それは、市民としての自覚ではないだろうか。

私が思うには、市政はなにも市長や市会議員がにぎってなく、市民も参加しているのではないかと思う。しかし参加するにはそれなりの自覚と責任感が必要だ。市民会員が政治参加の自覚をもち一生けん命努力をすれば、もっとよい平塚になることだろう。

野球のできる広場がほしい

伊本　達君（袋部小学校三年）

「伊本君遊ぼうよ。」とグローブを持った友達が来た。八幡山公園は野球をする友達でいっぱいだ。やっと入れてもらい球を打ったら道路にでてしまった。ひっきりなしに通る車で球があっちこっちへ行きあぶなくて取れない。

二十万都市をめざす平塚、子どもはもっとふえるだろう。「ああもっと広い遊び場がほしい。」ブランコやすべり台、遊びのたま球のあたらない広場が…。

きれいな空に

佐藤　亨子さん（土屋小学校四年）

私が市長になったら、緑をふやし、こうがいのないすみよい平塚にします。今、私は緑の多い土屋に住んでいます。

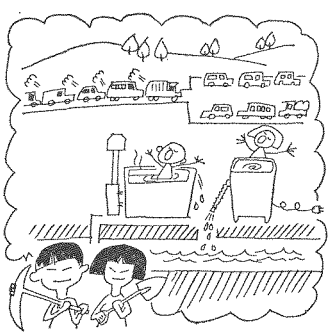
たまに用事で町へ出ると土屋のえんとつから、もくもくと黒いけむりが、風に流されて空をおおっています。

あれが、光学スモッグのもとでしょう。光学スモッグはぜんそくなどをおこすもとだから、それをなくし、空をきれいにして緑の多いすみよい平塚市にしたいと思っています。

下水をつくる

木川由美子さん（豊田小学校三年）

わたしの家では、下水がありません。だから蓜のすみに、マンホールが埋めてあります。



それもこのごろ水がへらないので道へ流れてしまいます。だからおふろに入る時に、あまりお湯が使えません。せんたくは毎日少しずつします。まえ聞っている人がたくさんいると思います。わたしが市長になったら下水道を作ってあげたい。

緑のある広場

梶山　徹君（中原小学校六年）

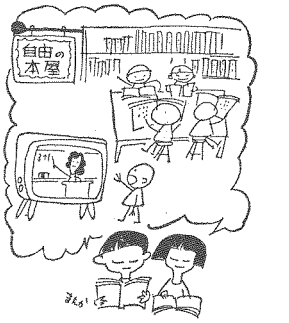
緑のある公園がほしい。公園があっても約束が多すぎる。あき地があっても、すぐ家が建ってしまう。ぼくは平塚を立派な建物だけの町にしたくない。緑はわたしたちにきれいな空気やもこいを与えてくれる。緑のある広い遊び場、これがぼくの理想だ。

コンクリート遊び場はいや

山野辺　亨子さん（第十見小学校六年）

このごろ、私は畑の中で遊んだことがない。

緑がないのだ。りっぱな公園もぜいたくな遊び場もいらない。もう自然をこわさないでほしい。ずっと残しておいてほしい。鉄やコンクリートで造った遊び道具もいらないたくさん。自由に左右回れてあきないような広い広い土地がほしい。人が植えつけた木でなく、花でなく、自然の緑のほんとうの遊び場がほしい。



横断歩道を

諸星　昌さん（花水小学校三年）

わたしの家のまわりは、じゅうたく地や道路ばかりで遊び場がありません。だから、わたしは、遊び場がほしいと思っていました。

それから、交通のことをあります。わたしがよく、なにと原の方へ行くと、横だん歩道が少ないのです。だから、わたしは横だん歩道を、つくってほしいと思いました。

水中サイクリングコースを

石塚　勇君（松原小学校三年）

すごく長いサイクリングコースや、広いプロの来る平塚球場を造る。馬入川と梅ヶ水中レストランや、水中サイクリングコースを造ったらいい。いろいろな、世界の自動車がある遊園をつくってみたい。自然の中に動物をはなしがいにする。

ロボットで街中をきれいに

小川　滝三郎君（松ヶ丘小学校四年）

ぼくは、工作がすきだからロボットを作る。町のゴミを食べ、海や川をそうじをするロボット。工場が出すよごれけむりやハ動車のはい気ガスをすうロボット。たくさんのロボットを配らせ、活動させる。きっと平塚を発展させ豊かな住みやすい町にするだろう。

アスレチックコースの設置

南谷　斎君（南原小学校五年）

平塚市とそその市をくらべてみると、市民が集って運動ができるところがないのでスポーツ広場のようなものを建設してほしい。その中には、ぼくたちが自由に使えるアスレチックコースのようなものもほしい。また、プロ野球が見られる野球場を建設してもらいたい。

人工芝野球場

山田　浩二君（港小学校四年）

今の海岸公園に、広くてしずかのよい野球場がほしい。グランドが平で人工芝が植えてあり、自動水まきもある。夜は照明灯がつく。るいしんはロボットでかく実にほん断する。ロボットにさからうと、ひどいめにあわされる。ホームランだとかさなカップがロボットの腹から出てくる。「バンザイ」そんな野球場がほしい。

美しい自然を

津田　裕康君（八幡小学校四年）

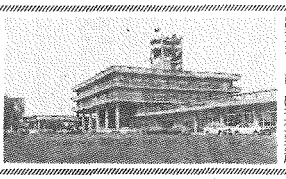
僕は、公園から山作り緑の多い平塚にしたい。緑は、人々の心を豊かにし、ゆとりを与えてくれる。小鳥や、虫、生きものが集まってくる美しい自然の多い平塚になれば、きっと公害や交通事故もなくなると思う。「ほんとうに緑はいいなあ」そんな緑の多い平塚にしたい。

広い公園を

市場　たつや君（横内小学校三年）

平塚市には、広い遊び場が少い。僕たちの遊び場は思いっきり使えない。すみで遊ぶ事が多い。僕の夢は、動物園や遊び道具のたくさんある広い公園が作れないかと考える。そばには交通博物館、図書館、美術館、子供劇場も作る。小田原動物園のようにたくさんの木があって、一年中花咲く花だんもほしい。体力をつけたり、勉強したり、心を休めたりそんな広場が夢である。

未来の平塚

20万都市

新春とともに平塚市が二十万人都市となる。人口はかりがふえて行政が立ち遅れしまってはなんにもならないが、やはり市民のひとりとしてうれしい気がする▼市議が二十万人という決りとしてふえない市民を抱えて法律上、どのような変化があるのだろうか、六法全書を開いてみた▼まず、地方自治法では、市議会議員の定数を今より四人ふやして四十四人とすることができる。ただし、官報で公示された国勢調査の結果というとなるので昭和五十五年十月以降の選挙の日まで待たなければならない▼次に社会福祉事業法によれば「条例で福祉地区を設け、その地区ごとに福祉事務所を設置することができる」と規定されている。もっとも、先駆諸都市でも直ちに福祉事務所を複数にしているところは少ないようだ▼また、知事市場法では「農林大臣の認可を受けて中央卸売市場を開設することができる」ことになっている。これなどは生鮮食料品などの流通円滑化を図る意味でもぜひ実現しなければならないものの一つだ▼その他、消防力の強化を図る必要があるなど、二十万都市は財政的な面で苦しい立場を余儀なくされそうだ▼いずれにしてもわたしたちの平塚を「緑の音楽」人の波　街をあやなす…ようにしたい。実はこの文句、昭和二十七年に制定した平塚市歌の一節。